

# 東北土を考える会 夏期研修会を開催しました

2024年8月8日

東北土を考える会は、7月23日(火)、24日(水)の二日間、秋田県大潟村の「ホテルサンルーラル大潟」にて研修会を開催致しました。当日は、東北土を考える会会員と一般参加の生産者、農機メーカー等の企業、事務局を含め、北は北海道、南は熊本の方まで、過去最大の参加人数172名が集まりました。

今回は「雪国直播サミットin秋田」と題し、東北地方で10年ぶりに直播サミットを開催いたしました。

23日は、まず、大潟村にある吉原様のあきたこまち、高木様のたつこもちの乾田直播の2つの実証ほ場を2班に分かれて視察しました。ほ場主であるお二方が、どんなほ場か説明してくださり、積極的な質疑応答が行われました。

次にホテルにて、講演と情報提供が行われました。ひとつ目の講演は、農研機構中日本農業研究センター 上級研究員 石丸努氏による、『**水稻の高温対策**』は、近年の高温に伴う品質の低下のメカニズムや、作期分散によるリスク回避、高温耐性のある品種の採用などの対策方法をビデオ会議にてご講演頂きました。ふたつ目の講演は、農研機構東北農業研究センター 主任研究員 篠藤善哉氏による『**乾直の今と未来**』は、現在の普及状況や、栽培管理の方法など幅広い乾田直播の現状のお話と未来に向けた、スマート農業の活用や農地の集約・大区画化、水田輪作体系など海外の事例も含めながらご講演いただきました。最後に情報提供として、大潟村農業組合 常務理事 藤原行毅氏の『**大潟村の乾田直播と環境保全型農業農業への挑戦**』では、大潟村での直播の取り組みの歴史と、直播の必要性、メリット・デメリット、大潟村の環境保全の今までの取り組みと乾田直播で代掻きを行わないことでの水質改善の取り組みをお話いただきました。その後、総合討論では、清水会長がファシリテーターとなり、パネラーを篠藤善哉氏、藤原行毅氏、スガノ農機技術顧問の齊藤義崇氏、急遽参加が決まった、東北大学大学院農学研究科次世代食産業創造センター教授の大谷隆二氏を交えて、皆さん苦労する除草体系や、プラウ耕について、今後の乾田直播の普及や、雪国直播サミットを開催してからの変化、最後に日本の農業の今後の発展について、パネラーの皆様から様々な目線でお話いただきました。研修会の最後は、東北地方における乾田直播の先駆者 矢久保英吾様へ当時の動画の再生と東北土を考える会より水稻乾田直播 功績賞として表彰式を行いました。

研修会後の情報交換会はたくさんの方で賑わい、大盛況で深夜まで続きました。

24日は、マイクロバスで移動し、秋田県湯沢市にある株式会社やまだアグリサービス様で現地視察を行いました。マイコスを使用し乾田直播で陸稲を行っており、どの品種が向いているか9品種を作付けしているとのこと。生育の良かった品種の種籾を来年にも使用するとのこと、水管理の省力化や、節水型栽培にも取り組んでおり、皆さん雨の中ではありませんでしたが、真剣に耳を傾けていました。10年ぶりに開催された東北での雪国直播サミットは2日間にわたる充実した研修会となりました。

